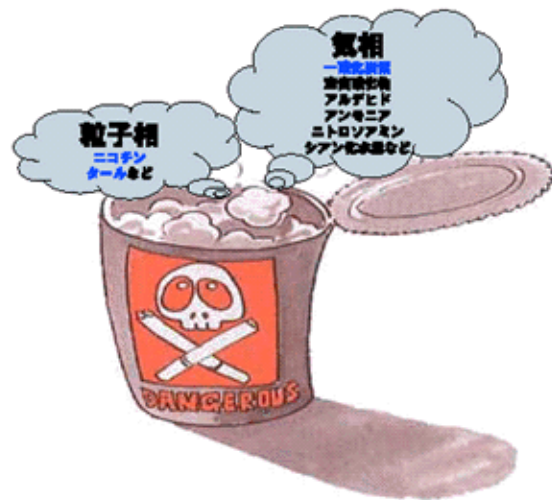


## タバコは毒物の缶詰



◆タバコの煙の中には4000種類以上の化学物質が含まれる

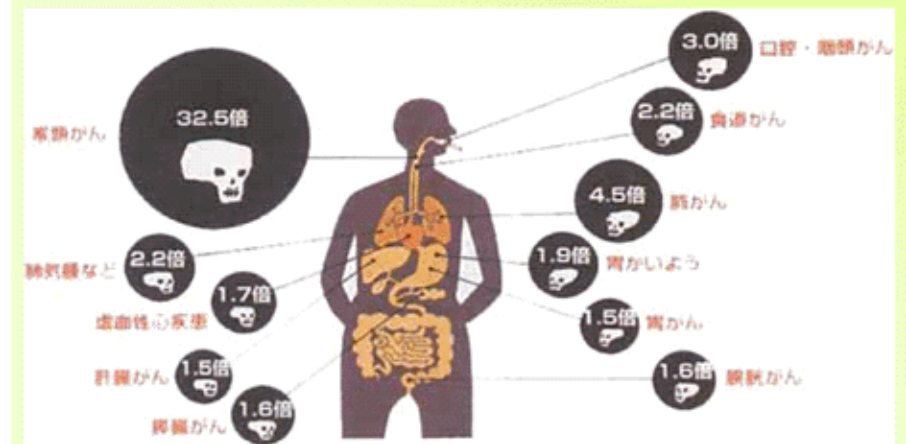
◆そのうち200種類以上は有害物質である

© 厚生労働科学・中村班 2002

### タバコは毒物の缶詰

- タバコの煙の中には約4000種類の物質が含まれているが、そのうち200種類以上は有害物質である。
- 代表的な有害物質には、ニコチン、一酸化炭素、タールのほか、カドミウム、砒素、アンモニア、シアン化水素、さらにはダイオキシンなどがある。
- ニコチンには、依存性があるほか、血管収縮作用や胃酸の分泌促進作用があり、胃潰瘍や十二指腸潰瘍などを引き起こす。
- タールには、約40種類の発がん物質が含まれており、肺がんをはじめ、多くのがんを引き起こす。
- 一酸化炭素は、血管内皮を傷害して動脈硬化を促進させ、心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こす。また、ヘモグロビンとの結合力は酸素の約250倍も高く、酸素の運搬を妨害するため、持久力や作業能率が低下する。

## 非喫煙者と比較した喫煙者の死亡率(%) - 男



(平山 雄, 1990)

© 厚生労働科学・中村班 2002

### 非喫煙者と比較した喫煙者の死亡率

- タバコを吸うと、種々の病気による死亡率が高くなる。
- タバコを吸うと死亡するリスクが高くなる病気には、肺がんをはじめとする多くのがん、虚血性心疾患、肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患、胃潰瘍などがある。
- 26万人の日本人を対象に追跡調査を実施した平山らの研究によると、非喫煙者に比べて喫煙者の死亡比が最も高いのは、喉頭がんで32.5倍である。次いで、肺がん4.5倍、口腔・咽頭がん3.0倍、肺気腫2.2倍、食道がん2.2倍などの順になっている(以上、いずれも男性の成績)。
- タバコを吸い始める年齢が若いほど、これらの病気で死亡するリスクが高くなることが明らかになっている。特に年齢14歳以下で吸い始めた場合に、がんや虚血性心疾患で死亡するリスクがとりわけ高くなる。